

学域横断的プロジェクト入門 2024

シラバス

授業の主題

この授業は、高校時代に培った、探究学習を始めとする、主体的かつ協働的な学びや経験を、発展的に、大学への学びと接続させることを目指す、グループワーク型の研究プロジェクトです。また、学域、学類を超えて集まった「多様な学生が切磋琢磨し相互に刺激を与えながら成長する場」として研究プロジェクトを位置づけ、多様な視点を交差、交流させることから得られる学知や経験を重視します。この授業を通して、今後の専門教育の土台の一つを築くことを目指します。

学修目標（到達目標）

1. 受講生が、高校での学びと大学での学びの質的な連続性と相違点を自覚することができるようになる
2. 受講生が、グループワークを通して、研究の分担や協力などの基本的な作法を身に付ける
3. 受講生が、他のグループの研究発表に興味関心をもち、主体的、積極的に、質問やコメントができるようになる
4. 受講生が、質の高い研究プロジェクトにするための条件について、自ら考えられるようになる
5. 受講生が、グループ内で共通する問題意識について議論し、それを一つに集約し、言語化できるようになる
6. 受講生が、問題意識を、検証可能なリサーチクエッションに変換できるようになり、また、リサーチクエッションや選択した対象に適した、先行研究や資料を探ることができるようになる
7. 受講生が、選択した対象に適した、ディシプリンや検証方法について考えることができるようになる
8. 受講生が、グループ内またはクラス内発表などを通して、自分（たち）の研究上の問題点を自覚し、それを修正する態度を身に付けられるようになる

授業概要

学域、学類を超えて編成されるグループにおいて、課題発見から課題解決にいたる一連のプロセスを経験します 1. 高校での探究学習を共有する 2. グループ全員が興味をもつことができるテーマを探し出し、リサーチプロポーザル（リサーチクエッション、先行研究、研究方法など）を執筆する 3. リサーチプロポーザルにもとづく、プレゼンテーションを実施する

評価の割合

- ・リサーチプロポーザル（レポート形式） 30%
 - ・プレゼンテーション（スライド資料） 20%
 - ・毎回の授業課題（予習・復習） 30%
 - ・受講態度（グループへの貢献度を含む） 20%
- ※授業には3分の2以上の出席を必要とします - ※評価基準は、授業目標に準じます

教科書・参考書補足

参考書

1. 戸田山和久『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』（NHKブックス、2022年）
2. ジョン・モーリー（高橋さきの訳・国枝哲夫監訳）『アカデミック・フレーズバンク：そのまま使える！構文200・文例1900』（講談社、2022年）

適宜、授業内で配布します。

予習に関する指示

グループワークまたはリサーチプロポーザルに必要な文献を適宜配布します。授業までに読み、指示に応じて、まとめてください（目安1時間）。

復習に関する指示

毎回の授業内容に合わせて、授業時間外のグループワークが必要です。進捗を確認できる資料を用意してください（目安1時間）。